

ご あ い さ つ



会 長 村 上 幸 男



理 事 長 池 上 弘

地域の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

おかげをもちまして、当金庫は、明治42年5月の創業以来、本年で114年目を迎えることができました。この間、一貫して地域金融機関としての使命を十分に認識し、地域の皆さま方にご支援をいただきながら事業の拡大、経営体質の強化に努めてまいりました。

今年度も当金庫へのご理解を一層深めていただきたく、ディスクロージャー誌「2023 にししんのご案内」を作成いたしましたので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

さて、わが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大抑制と経済活動の両立が進むも、緩やかに持ち直しているものの、ウクライナ情勢の長期化や世界的なインフレの影響など、先行きの不透明感は拭いていません。

地域経済においても、少子高齢化や人口減少などの構造的な課題を抱えるなか、原材料価格の高騰等に加え、コロナ融資の返済の本格化により、中小企業を取り巻く経営環境は依然として厳しい状況に置かれています。

金融機関においては、お客さまに寄り添い、課題解決に向けたコンサルティング機能を発揮し、事業再構築や販路拡大・経営改善・事業承継支援等による事業者の経営の持続可能性確保に向けて、最大限貢献していくことが求められています。

このような経済・金融環境のなか、令和4年度、当金庫では、金融仲介機能を強化し、適切な業務運営及び経営効率の向上に取り組み、預貸金を中心とした本業分野においては、前期を上回る利益を計上しました。しかしながら、コロナ禍の長期化等の影響を受け、将来発生の予測される貸倒損失への厳格な対応による貸倒引当金の積み増し、また、固定資産の減損損失の計上などにより、経常損益及び当期純損益は損失となりました。

当期は、こうした厳しい業務運営状況となりましたが、資金運用収益の強化、経費の削減などに努めました結果、自己資本額は201億円、金融機関の経営の健全性を示す自己資本比率は、9.20%と国内金融機関の基準となる4%を大きく上回る水準にあります。

令和5年度も、最重要課題である収益性の改善に向け、貸出金の増強、役務取引の強化、効率的な余資運用に注力するとともに、営業体制の強化、経費削減の推進による生産性の向上、店舗運営の見直し等による経営の効率化をもって業績の回復に取り組んでまいります。

地域とともにアフターコロナを生き抜くため、お取引先の資金繰りを支えることはもとより、課題や悩みに耳を傾け、共に知恵を出し合い、解決策を生み出していくことが信用金庫の果たすべき大きな役割です。役職員一人ひとりが、お客さまや地域をこれまで以上に支援していくという覚悟を持ち、引き続き伴走型の本業支援に地道に取り組み、お取引先の新たな挑戦をサポートするなど、地域社会の課題解決に努めてまいります。

引き続き厳しい経営環境が予測されますが、「にししん」は一丸となって、「ファーストコールをいただけるお客さまに一番近い金融機関」を目指すとともに、役職員一人ひとりが持てる力を最大限発揮して、地域の活性化に貢献してまいります。

今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

令和5年7月

会 長 村 上 幸 男
理 事 長 池 上 弘